

月日: 2019年 7月 3日 (水) 時間: 15:00~17:00 場所: 福岡市科学館 4階 会議室1

出席者:

<外部評価委員>

- 伊藤 克治 福岡教育大学 理科教育ユニット(化学)教授
- 緒方 泉 九州産業大学 教授 博士(文学)
- 栗原 隆 シンフォニックアソシエーション 代表

<事業者>

- 板里 株式会社福岡サイエンス&クリエイティブ 代表取締役
- 丹治 株式会社福岡サイエンス&クリエイティブ 取締役
- 伊藤 福岡市科学館 館長
- 高安 福岡市科学館 PJアドバイザー
- 高橋 福岡市科学館 事業推進責任者
- 横田 福岡市科学館 事務局長
- 吉武 福岡市科学館 事務局長補佐
- 穴澤 福岡市科学館 ドームシアター担当者 (敬称略)

配付資料: 福岡市科学館年報-2018年度版-
福岡市科学館季刊誌(2018年度発行版)

■ 議事内容(概要)	発言者
1. 委員長の選出	
要綱第3条にもとづき、委員長を互選の結果、満場一致により伊藤氏が選出された。 縣委員は海外出張中のため今回の委員会を欠席された。	
2. 2018年度事業報告	
事業者から、年報および参考資料に基づき前年度の事業内容等について報告。	
3. 委員意見交換・評価等	
事業報告を受け、各委員から意見や評価、提言等が出された。	
年報9頁の企画展示の人数と14頁から17頁の企画展示室利用者と一致しないが。	緒方委員
9頁の一覧表の数値は、諸室の利用数となっており、連携事業やものづくりプログラムなどの人数も含んでいるので、多くなっており一致しない。	横田
年報のセミナー講座の欄にはどの年齢層を対象にしているかターゲットを書いてないのもったいない。6つの約束は非常に重要なので、これも年報とリンクさせるとよい。	緒方委員
クラブ活動を行っているが全体の発表会のようなものは行っているか？	
個々のクラブでは行っているが、全体のものは実施していない。	丹治
サイエンスどんたくはすごいと思った。幼児から児童を集めるのは簡単だが、中学生・高校生は大変だと思う。このサイエンスどんたくの高校生はどうやって集めたのか。	伊藤委員長
福岡市と連携して声掛けをしてもらったり、連携事業を行っている大学から付属高校に依頼してもらったり、よく来館されている高校生に声をかけたりした。	丹治
福岡県教育委員会の高校教育課とつながっていると連携しやすくなると思う。SSH(スーパーサイエンスハイスクール)に参画している高校は県内にもいくつかある。	伊藤委員長
平日のサイエンスショーの年齢層はどのようなものか？	伊藤委員長
未就学児や大人が多いと感じる。	丹治

サイエンスショーに参加したお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんが、子どもと行える実験などはいかがか。帰ってから家で試せるようなもの。	伊藤委員長
そういったものであればテーブルサイエンスの方が向いているかもしれない。	伊藤
来館者の層にインバウンドはいるか？ 韓国中国台湾の方は多い。中でも韓国のインフルエンサーが取り上げてくれているので知名度も上がってきていると感じる。	伊藤委員長 丹治
ドームシアターの大人向けの番組は、どんな点を大人向けに訴求しているのか。ポイントは？	栗原委員
スペシャル番組はヒーリングがキーワード。仕事帰りのつかれた会社員の方に癒しを与えている。またスペシャルイベントでは、ライブやトークショーなどを行っている。	穴澤
年報10頁のアンケートを見てみると、満足度の点で若い層に比べて30代から50代で「やや不満」「不満」がかなり多い結果となっている。そのあたりの対策を行ったほうがよいのではないだろうか。	栗原委員
大人への楽しみ方の提案が欠けている。	伊藤
全国の科学館でも同様の結果が出ている。30代から50代は、昔ながらの科学館の歴史事実の展示や20世紀型の展示を求めているのでは？	高安
科学館をクリエイターを通して見るとどうなるか、として作っている。原理原則が欠けているのではないかという指摘もある。高齢化社会に対して科学館ができることを模索し、高齢者を呼び戻すことができればと考えている。	板里
先日、放送大学生を連れてきたが、基本展示室内のスタンプは、展示を回るきっかけとなっており素晴らしい。人はそれぞれに見たいと思う展示は違うと思うが、スタンプがいろいろな展示をまわる導入となっており非常に有効である。	緒方委員
福岡市より、中高生が少ないと指摘を受けている。科学館だけでなにかをやるには限界があるのではと思う。	板里
中高生については発表の場を提供してあげるとよい。	緒方委員
高校生が一日に一番時間を使うのは受験勉強。科学館だからこそできるアドバンテージとして、高校の理数科と連携をすると高校生が集まるかもしれない。	伊藤委員長
高知みらい科学館では課題研究の発表会を行っていた。自由研究の科学作品展を科学館でやってみるというのも面白い。まずは受け入れ場所として、科学館があるという提案をしてみるとよい。	緒方委員
アンケートのネガティブデータの内容を聞きたい。展示に関することが多いか？	伊藤委員長
ネガティブなアンケートデータのほとんどが環境に関する事で、展示の中身に関する事はほとんどない。	伊藤
分析の仕方によって違ってくるので、いま一度精査する必要がある。	板里
SSJ(スーパーサイエンスジュニア)の対象はどの層か？	緒方委員
小学校4年生から中学生。	伊藤
サポーターの実登録数は？	緒方委員
約60名。現在登録待ちの方もいて70前後になりそう。	横田
どんな活動を行っているか？	緒方委員
基本展示室の案内、無料スペースの知育玩具の貸し出し、おはなし会、1日学習の実験のサポートなどを行ってもらっている。今後は範囲をもっと広げていくべき。性格や知識量などを見定めながら配置を。科学館として、どの部分をサポートしてほしいか、それにより研修内容を変えていく。	伊藤
テーブルサイエンスは大人にも子供にも伝わるすごく丁寧な進め方をしていると感じた。そこにサポーターも加えていくといい。	緒方委員

図書の貸し出し冊数、毎月5,000冊前後だがこれはどういう数字か。
福岡市総合図書館の蔵書の貸し出し返却業務を代行しており、その冊数である。

栗原委員

横田

そこに人員をかけているのは非常にもったいない。本来の業務として考えると手を広げすぎている。人手がかかからない返却ボックス程度にしておくべきだろう。

伊藤委員長

選択と集中をしていかないと、持続可能性が担保されなくなる。

緒方委員

5. 委員長総評

よくこのスタッフ数でこれだけの事業をこなしていると感じる。いいものをさらに伸ばして、課題とする部分は変えていく。今日も各地で大雨の警報が出ているが、予測不可能な気象状況が、一般市民の科学に対する関心をひいている側面もある。

広報戦略は非常にうまいと感じる。人を惹きつける広報活動ができています。アンケートは結果を交流室に掲示しているという点だが、プラスもマイナスも発信していくという姿勢は信頼性を高めるという点からも評価できる。

伊藤委員長

本物を体験できる大事な場であり続けてほしい。科学館を核とした地域づくりとして堂々と発信できる。地域と密着した姿勢を今後も貫いてほしい。